

## 平成24年度第2回八幡地域協議会会議録（HP版・概要）

日 時 平成24年7月27日（金）午後1時30分～午後3時45分

場 所 八幡タウンセンター 第3・第4会議室

出席者（11名）

1号委員 加藤久美 高橋せつ子 長谷川明子

2号委員 後藤純子 阿曾千一 池田善幸 荒生道博

阿部喜至夫 高橋知美 池田久浩

3号委員 後藤征四郎

八幡総合支所：支所長兼市民福祉課長 土井一郎、地域振興課長 後藤修

建設産業課長 阿部幸秀、八幡病院事務長 佐藤弥

市民福祉課長補佐 石塚裕

地域振興課 鳴瀬勉 池田裕子

欠席委員 佐藤訓 堀直良 小松幸雄

傍聴者： なし

### 1 開 会

**○長谷川明子副会長** 時間になりましたので始めたいと思います。本日はお忙しいところおいでいただきましてありがとうございます。これより、第2回目の地域協議会を開会いたします。本日、都合により欠席の委員は、堀直良委員、小松幸雄委員の2名です。会議次第に従いまして、池田会長からの挨拶をお願いします。

### 2 会長あいさつ

**○池田善幸会長** 皆さん、大変ご苦労さまです。ようやく昨日、山形県も梅雨明けとなったようですが、これまで寒いと感じるほどだった訳ですが、これからようやく本格的な夏を迎えるということになります。少子化等の問題は酒田だけでなく全国的な社会的な問題となっていることですが、今までの概念に捉われず対処していくことが大事になってきます。みなさんからも忌憚のないご意見や事業の進捗状況を把握していただきながら会議を進めていただきたいと思います。

### 3 会議録署名委員の指名

**○長谷川副会長** 会議に入る前に、会議録署名委員の指名を行います。今回は“8番の阿曾千一委員”をお願いしたいと思います。阿曾委員、よろしくをお願いします。

**○阿曾千一委員** わかりました。

**○長谷川副会長** それでは早速協議に入ります。会長が議長となり進めていただきます。

#### 4 報 告

- 池田議長 それでは、報告と協議に移ります。概ね2時間位の意見交換と考えています。なお、報告の(2)平成24年度以降の公立保育園の統合についてですが、午後3時過ぎに市の子育て支援課より説明に上がりたいとの連絡が入っていますので皆さまのご協力よろしくお願ひしたいと思ひます。ではまず初めに、報告の(1)酒田市過疎地域自立促進計画の進捗状況につきまして事務局から説明をお願いします。
- 後藤地域振興課長 (資料No. 1により酒田市過疎地域自立促進計画(平成22年度～平成27年度)の八幡地域及び全地域共通の進捗状況について説明)
- 池田議長 ただ今の報告について質問等ありますでしょうか。
- 高橋知美委員 学童保育所整備事業が完了になっているが、八幡地域も完了ということによろしいのか。
- 後藤地域振興課長 旧三町で学童保育所を新設したところがある。どの場所に設置したのか資料がないため、申し訳ないがはっきりしない。
- 高橋知美委員 八幡の学童保育所の関係で、子どもが熱を出した時に物置みたいな部屋に寝せられているとの話を聞いたことがある。壁がボロボロだったりとか、安全性の面での対応状況をお聞きしたい。
- 土井支所長 学童保育所は学童保育所運営協議会というところで運営している。施設の維持管理についてどういった形になっているか、後で確認して回答したい。このあいだ、信夫一秋会長が見えられて学童保育所の件で2点ほど要望があった。1つ目が子どもの寝る場所の確保と2つ目が避難経路の確保であった。旧健康保健センターの1階部分をふれあい商工会と学童保育所に貸している形となっているが、商工会の隣の畳の部屋に学童保育所の荷物があつたのを他のところに荷物に移して整理し、そこを子ども達が休む場所として使っている。2つ目の避難経路については、北側の通路から西側に抜ける通路があるが、そこにも学童保育所の荷物があり通れなかった。その荷物を取り除いて、さらに3箇所の通路に矢印の標識を張って避難経路を表示している。壁の破損については聞いてなかったので後で確認したい。
- 荒生道博委員 この地域協議会における委員の意見の市政への反映度は、どのようになっているのかお聞きしたい。以前空き家の有効活用との関係で意見を出したが、その後の対応が目に見えてこない。現在、どういう状況になっているのか。
- 事務局 空き家の関係については昨年度に危険家屋の把握を中心に調査を行った。空き家の有効活用については今後の検討課題となっている。
- 荒生道博委員 あれから、だいぶ時間が経っているのでは、今さら検討中というのはどうかと思う。
- 土井支所長 空き家の関係については問題が2点あると思っている。1つ目は空き家が発生した場合、修理して借りたい人に貸し出し有効活用するといった点は必要性を感じている。2つ目は、空き家が生じて年が経つにつれ老朽化が進み、危険性が出てきて撤去しなければならないケースが出てきている。市のほうでも今年の7月に空き家の適正管理に関する条例が施行され、市が所有者等に対して「空き家をどうしますか」「空き家を

撤去して下さい」といった勧告まで出来る踏み込んだ内容になっている。強制的に市が撤去できるのか等の課題が残っているが、空き家の撤去に関しては一つの道筋ができたのではないかと考えている。また撤去だけでなく空き家を貸すといった利用の部分の検討会も発足することになっている。震災関連の空き家の貸出しについては、市の対応として公営住宅を貸し出すといった施策をとっている。

○**長谷川副会長** 私も空き家を1件持っていて、今年の3月に市のほうから適正管理のお願いの文書が届いた。

○**土井支所長** 荒生委員の空き家の貸し借りといった部分については、今後の検討課題となる。

○**荒生道博委員** 震災関連で避難した人達が体育館等に居住するよりは空き家の有効活用の視点で1年半前に意見を出させてもらった。有効利用という点では、今回できた空き家条例では必ずしも解決していない。八幡には今でも使用できそうな立派な空き家が見受けられる。行政側で、震災での避難者にそういった空き家があるということのPRの行動をとったのかお聞きしたい。今さら検討ということでは遅すぎるのでは。

○**土井支所長** 行政側としては、震災での避難者に対して市や県で所有している公営住宅を斡旋したり民間のアパートを借り上げて対応にあたっている。空き家を貸すことについては、すぐに貸せる状態の空き家が少なくと空き家を修理する場合の所有者との負担の割合等の問題もあり、早急に対応できない原因でもある。

○**荒生道博委員** 空き家の有効活用は、ゆくゆくは過疎対策につながると思われる。津波の被害にあった人々が事情により津波の危険性のあるところにまた住まざるを得ない話を報道で見ると、津波の面では心配がない安全な八幡地域をもっとPRし、若者がこれだけ流出している中で、方策の一つになるのではと提案させていただいた。

○**石塚市民福祉課長補佐** 昨年、酒田市の被災者の支援事業で、農業をやりたい人への自立支援ということで農機具の貸付け等の内容で募集したが、応募者はいなかった。被災者支援の情報発信という点では農業新聞への掲載及び県と連絡を取り合いながら酒田市としては支援に取り組んでいる。

○**土井支所長** 工場用敷地として無償で貸出の働きかけも行っている。

○**池田議長** 地域協議会のあり方として、合併時に八幡地域の意見を少しでも市政に反映させようといった目的があって設立された。八幡地域の議員さんは八幡の代表ではなく酒田市民全体の代表であり、地域協議会の皆さんは八幡の代表ということで議員と違った立場といえると思う。

○**荒生道博委員** たとえば、退職後、自宅を新築するよりも空き家を修理して買ったり借りるほうがずっと経済的だ。実際、すぐに住めそうな空き家も数々見受けられる訳で所有者の了解を得て、インターネットを利用して写真付きでPRするのも一つの方法と思われる。

## 5 協 議

○**池田議長** 続きまして、協議題の(1)八幡地域ビジョンのソフト事業(素案)につい

て事務局より説明願います。

○事務局 ソフト事業（素案）について14事業の素案を説明（資料3）

○加藤久美委員 要望として、この協議会の協議資料は当日ではなく事前にいただきたい。前もって資料に目を通すことで、地域の人達の話も拾えるし会議で話したい意見もまとめられて、会議の時間も有効に使える。あと地域協議会自体が事務局の思惑通りに進められて「市では説明をしましたよ」という実績作りの様子で、私たち委員が出席している意義に疑問を感じてしまう。

○後藤純子委員 地域協議会に参加した当初は「予め会議でこのような議題があるから地域の方々の意見を吸い上げていただきたい」と言われていたが、最近はそういうこともなくなって、委員と地域とのつながりというのも薄くなってきた感じがする。資料も以前は1ヶ月位前には来ていたと記憶している。1週間でも良いので早くいただければ・・・。

○荒生道博委員 元気づくり事業の関係で、コミュニティビジネスというのが非常にわかりづらい。再生エネルギーということで、現在、生ゴミや汚泥等によるバイオマス発電事業の計画の段階だが、このような事業は、元気づくり事業のコミュニティビジネスの法人の設立に該当するか。

○事務局 コミュニティビジネスの内容として、福祉・環境保全・リサイクル・子どもの健全育成等であり、利益第一主義ではなく地域社会に貢献する事業を通じて、意義や意味を追及していくことにある。

○阿曾千一委員 これまで色々な事業で補助が切れたら、それで事業が終了ということで嫌な思いをしてきた。これからは、いかに地域の人達に自立促進を求めていくかに尽きる。行政職員が号令をかけて、食べたくもないお膳を食べさせるような時代は終わった。地域の人々が問題意識を持って、そこに行政がバックアップするといった形が望ましい。事業に取り組む側が一人でも意識を持って取り組まないと長続きしない。コミュニティビジネスにしてもNPO法人とかLLCとか法人を組織して活動している実態があるが、税金を納めているのは個人か法人しかない訳であり、納税義務のない団体と違い、国から助成をいただき地域に還元し正々堂々と税金を納めるといった形、地域をみんなでやっていく形というものが、これからの時代に必要性がいつそう出てくるのではと思われる。事業の自立を前提とするなら法人化を目指すことは正解かと思う。どのように法人化するかというのはアドバイザーの支援を受ける方法もある。それから「ボランティア乗合ワゴン車」の関係で、お金を取るといった行為は白タク行為にはならないのか。

○後藤地域振興課長 なりません。全国でやっています。

○阿曾千一委員 現在、業務で送迎しているが料金を取ると白タク行為になるので無料にするか、料金を取るなら登録をなさいとの話聞いた覚えがあるが、ならないというなら私の記憶違いかも知れない。

○阿部喜至夫委員 「ボランティア乗合ワゴン車」の件で、いくらボランティアでも事故を起こしたら個人の責任になってしまう。行政主導でやる事業として、はたして本当にそれで良いのかということになる。例えば、地域おこし協力隊員にちゃんと給料を払って運転させるとかだったら良いが、まるっきり無償のボランティアを募集するというのは

相当厳しいものがあるのではないか。協力隊員に冬は除雪してもらったり弁当の宅配とか、そういった人材さえいれば色々な事業ができるのではと感じている。それから「健康づくりと宿泊施設連携事業」の件で、升田のスキー場にすわって乗れるリフトが出来ないか、沖縄の子ども達も毎年来ているし酒田に1ヶ所くらいあってもいいのかなと思っている。

○池田久浩委員 「健康づくりと宿泊施設連携事業」の件で、通過型から滞在型の観光ということで前々から話は出てくるが実際はといったところです。宿泊施設といったものが八幡には実際あまりない。お金を出して泊まれる施設だけでなく、空き家の話ではないが、もっと手軽に泊まれるところがあっても良いのかなと感じている。あと、「情報発信事業」の件で、インターネットを通じて八幡地域の情報発信が出来ないか模索しているところがあり、それに関連してお土産品を開発しようとしている方々もいるようだが、なかなか資金面で苦しい訳で、行政面から支援をいただきたいといった話もある。そういった支援の情報提供をもっと行政からいただければと思われる。そして、もっと住民のニーズに合った事業のやり方、補助金の出し方というのを検討する必要があるのではと思われる。鳥海山も有名にはなったが、集客という面ではまだまだ利用する方法を考える必要があろうかと思われる。

○長谷川副会長 資料に「奴振り」の写真があるが、毎年5月1日のNHKのニュースに流れるのが松山地域の武者行列だけである。あれだけ八幡では2つの奴振りがあって人も多いのに情報の発信の仕方が悪いのかまったくマスコミが来なくて悔しい感じがする。今年のまつりの日に、八幡のまつりの良さを聞いた鶴岡の人にたまたまお会いできて話をしたが、もう少し情報発信に努めていただければと思われる。

○荒生道博委員 「地域文化振興事業」の関係で、「青沢獅子踊り」に毎年3～5人位、情報を聞きつけてカメラマンがやってくる。反面、一番の問題が後継者不足である。青沢踊りのルーツは北俣・青沢・本楯の新田目・西坂本の4地区であるが、青沢が一番飛び跳ねる激しい踊りで知られており、三十路を過ぎると翌日しゃがめない等の筋肉痛に悩まされる程だが、昔は朝8時から日が暮れるまで1件ずつ回って踊っていたものだが、現在は若者がいても入ってこない悩みがある。こうなると外部から、たとえば公益文科大学の学生たちに「伝統文化にふれてみませんか」ということで情報発信する方法もあるのでは。保存会としては、幕張メッセでの全国自慢市などに出演はしているが、年齢が増すと共に本来の見せ場であるジャンプ力が衰えてくるというかやつれてきている。頭ではわかっているので、指導はしているが体がついてこないといった感じであるが、昔からの伝統芸能は絶やしたくないと痛切に感じる。

○阿曾千一委員 青沢獅子踊りがどのようなきっかけで始まったのかといった歴史的な経緯をインターネット等を利用して発信することも必要かと思う。私自身、毎年家が近いので杉沢の比山を見に行っているが、明治大学の学生さんたちが見に来ていたりして観客は多い。

○荒生道博委員 過去、盛りにやっていた頃は、マスコミが来たりスライドを作って県のコンクールで準優勝をいただいたり、八幡町時代の文化祭でも発表してきた。だが現在は

やつれてきている関係から堂々と発表できなくなっている。松山の武者行列を見に行ったが緩慢に歩いている様子で、八幡の奴振りの方が活気があってずっと良い。

○阿曾千一委員 この庄内地域は神々が棲むといわれる山々が多くあり、伝統行事の関係では全国にも誇れることのできる地域である。そういった行事等を分散させて情報を出すのではなく、ある程度集大成させた形としてPRしたほうが効果的なのかなと思われる。

○荒生道博委員 行政頼みだけではいけないと思われる。地域の人々も、「やる人がいないのじゃ、しょうがない」と終わるのではなく、民俗芸能の継承に会員と同様に危機意識を持つことが大切である。本楯の国府まつりの際に全国規模での獅子踊りの公演があったが、補助金を多くいただいている団体については、さすがに衣装も立派だった。私たちの団体の衣装は手作りだったが、立派な衣装の団体に負けないように跳ねようということのでがんばった記憶がある。

○後藤地域振興課長 最初の段階として民俗芸能保存会の協議会を立ち上げることになるのかと思われる。

○高橋知美委員 大沢太鼓に興味があつて話をしたことがあるが、その地区の人しか出来ないということで、非常に誇りを持っていた。保存会に外部から入れようとする人達と地域の人達だけで活動しようとする方々との考え方に差があると思われる。そうした地域の人達の考え方をひとつにまとめないと、益々考え方に溝ができてしまうのではないか。

○荒生道博委員 他の地域で、保存会の会員不足で笛の部分をテープでやっている団体もあるが、そうなってくるとさみしいものがある。また、各地域の獅子踊りの公演日が同じ日だったりして、他の獅子踊りが見られないことが多い。一同に介した公演を行政が仲立ちとなってやれば盛り上げにつながると思われる。

○池田議長 青沢の獅子踊りをはじめとする貴重な民俗芸能を何とかしたいといった考えはみなさんに共通したものであろうかと思われまますので、次回の会議で具体的な組織化みたいな話が出るのではと考えられる。今回の資料を持ち帰ってもらって、自分としての考え方あるいは地域の方々の意見を集約していただいて次回の会議で意見を出していただければと思います。

○阿曾千一委員 事業については、だれが火を付けてまとめるかといった人材にかかっている。自治会長だけに頼らず経験に長けた市役所OBから入ってもらうのも一つの手だ。

○池田議長 資料には事業の担当課が記載されているが、だれかがリードして実行するものでないと話にならない。次回の会議までその点も考えていただければありがたいと思います。それでは、市のほうから保育園の統合の関係で説明に見えられていますので、お願いしたいと思います。

○高橋淳子子育て支援課長 (資料2の平成24年度以降の保育園の統合について説明)

○池田議長 ただ今の説明について何かご意見等ございますか。

○阿曾千一委員 酒田市との合併前に今の一條コミュニティセンターの脇に保育園を建てるという計画は取りやめになったのか。

- 土井支所長** 当時、市条保育園を建て替えるといった目的で土地を購入した。しかしその後、酒田市の建設計画の中で市条保育園を存続するか八幡保育園と統合するかといった検討があった。子育て支援課長の説明のとおり子どもの数が非常に少なくなってきている現状があり二者択一という点で八幡保育園と統合という選択があった。市条保育園の子ども達への環境の整備といった面でもご理解をいただきたい。
- 阿曾千一委員** これだけ子どもが少なくなってきている中では、致し方ない現状かと思われる。今、保育園は働くお母さんが増えたということで「延長保育」とか「乳児保育」とか多機能にわたってニーズがあるが、先ほどの説明の中の「保育園の拡充」とは建物の関係だけなのか
- 高橋淳子子育て支援課長** 建物だけではなく、保育サービスの充実を図って、結果的に統合して良かったと言われるようにしたいと考えている。
- 池田議長** 学童保育には保育園児も入所しているのか。
- 高橋知美委員** 学童は小学生が対象で会員制になっている。なおかつ市の施設ではなく独自の経営制度となっている。学童の親も運営上の話し合いに参加している。
- 池田議長** この地域が全国に誇れる子育て環境を目指してほしいというか、「どうか子どもは1人だけじゃなくて3人位産んでください、八幡に行くとも夜遅くまで保育園で見てくれる、人間形成だったらここですよ、安全・安心して子どもを預けられますよ、近くの荒瀬川も子ども達が川遊びが出来るほど整備されましたよ」となって、若者が「それじゃあ八幡に家を建てようか」となれるように保育園の機能の充実を市のほうで図っていただきたい。
- 土井支所長** 延長保育については現在夜7時まで行っている。升田の児童館については保育園児と小学生と一緒に観るといった体制を取っている。八幡保育園の機能の関係では、子育て支援センターを併設させて発育の相談の関係等には保健師を派遣させて対応に当たっている。今後も保育サービスの充実を図っていきたい。
- 阿曾千一委員** 以前、保育園の運営への国の助成、地方交付税措置の関係で公立保育園よりも社会福祉法人の保育園の数が増えてくるだろうといった話を記憶している。今後の酒田市の保育園の法人化の動向をお聞きしたい。
- 土井支所長** 八幡地域については平成27年度を目途に保育園を統合することになっている。本楯保育園については今後、法人化ということで現在検討中であり、八幡地域についても法人化については、今後、議論として出てくるのではと思われるが、その時期については未定である。
- 高橋知美委員** 子どもを持つ親としては、保育サービスの充実ということは非常にありがたいが、その分、保育料の負担が多くなるとなれば親達の心が狭くなる可能性がある。「この子どもの人数には先生の数は何人」と拘子定規に決めるのではなくて、ゆとりのある保育は心豊かな子が育つと思うので、そのようなサービスを充実させると安心して子どもを預けられるようになる。
- 高橋淳子子育て支援課長** 今のご意見につきまして、酒田市の保育園の職員配置基準としては、国の配置基準よりもかなり手厚い基準を設けているが、今のご意見等を踏まえて

今後に活かしていきたい。土井支所長からも話があったが、八幡保育園内に子育て支援センターが併設されており、今まで以上に子育て機能の充実を図っていきたい。

○池田議長 他に何かございますか。

○高橋知美委員 日向川の白濁の関係で、地元の人がサンプルを提出したのにも関わらず、その結果のお知らせがまだにないということで、提供者には出来る範囲で良いので情報を提供していただきたいし、住民の方々にもわかった範囲で、それなりの情報を発信していただきたい。

○土井支所長 1つ目のサンプルの件については、いつ採られたサンプルでどこに持ち込まれたかというのがわかれば支所の危機管理のほうで調査したい。2つ目の一般住民への情報発信の件については、住民説明会が開けるのか、本所の危機管理室で所管しているので確認したい。一番難しい点は、現場となっている箇所が、国の森林管理署の土地になっており、果たして市の職員が責任を持って説明ができるのかということにある。森林管理署が主体となって説明会を開いてくれるのかも含めて確認させていただきたい。

## 6 その他

○池田議長 事務局のほうからその他ということで何かありますか。

○事務局 秋に三総合支所の地域協議会の合同研修会を予定しているので、ご参加願いたい。

○池田議長 以上で本日の地域協議会を終了させていただきます。

## 7 閉会

○長谷川副会長 これをもちまして第2回目の地域協議会を終わらせていただきます。みなさま、大変ご苦労さまでした。